

『さっきやま魂』

R3. 10. 28 第13号

発行人：校長 中山 末永

充実の2時間50分

24日(日) 昨年度に引き続き、様々な制限がある中、保護者の皆様・学校支援会議委員の方々の温かい声援を受けながら、無事に運動会を実施することができました。

開会式の挨拶でも述べたように、子ども達の「笑顔」を楽しみにしながら、各種目を見ていました。その中で、私の心に強く残っていることをいくつか紹介します。

一つ目は『開会式・閉会式での態度』です。ラジオ体操以外は、どちらかといえばじっと動かない場面がほとんどです。そのような中で、子ども達の「聞く態度」が見違えるほど良くなっていました。朝礼台に立つと、一人ひとりの姿がよく見えます。話し手を見つめる視線・話を聞きながらうなずく姿から、子ども達の運動会に対する真剣な思いを感じ取ることができました。



1年生による堂々とした選手宣誓

二つ目は『返事・礼』です。運動会の種目は、各学年の短距離走から始まりました。選手一人ひとりの名前が呼ばれましたが、そのときの返事・礼は、とても元気よく堂々としていました。普段、あまり大きな声を出ることがない子どもも、運動会では、本部席テントまではっきり聞こえる返事をしてくれました。「はい!」という返事からも、子ども達の意気込みを感じ、応援する私にも気合いが入りました。



三つ目は『バトンパス』です。運動会最後の種目として、会場の皆様もとても楽しみにしていただろうと思います。一人一人の走りや順位も気になるところですが、私の一番の関心は「バトンパス」でした。

まずは、1年生のスタート。全員が左手にバトンを持って必死に走っています。いよいよ本部席前でのバトンパス、みごとに右手でバトンを受け取り、第二走者も力強く走り出していきました。練習機会も少なく、正直うまくいかない場面もあると考えていましたが、完璧なバトンパスが、中学生までしっかり行われたことに感激しました。



完璧なバトンパス

四つ目は『メリハリのある演技』です。短距離走・ダンス・ソーラン節の時に見せる真剣な表情や最後まで全力を尽くす姿、親子競技で照れくさそうに見つめ合う姿など、いろんな表情を楽しむことができました。きっと、会場に集まったたくさんの方々も笑顔になったことでしょう。

肌寒さを感じる2時間50分の運動会でしたが、子ども達の笑顔いっぱい頑張る姿に夢中になり、あっという間に時間が過ぎてしまいました。コロナ禍の特別な運動会でしたが、本当に中身の濃い、充実した運動会だったと思います。本当にありがとうございました。

次に子ども達の活躍する姿をお見せできるのは、**11月26日(金)に実施する学習発表会**です。運動会とは、ひと味違った子ども達の姿を見ることができると楽しみにしています。一番の心配事は、コロナの再拡大です。このまま市内で感染者が確認されなければ、より多くの方々に子ども達の頑張る姿をお見せしたいと考えています。これからも、感染対策を徹底しながら教育活動を推進していきますので、今後とも皆様のご協力をよろしくお願い致します。